



- ⑤能舞台上で成人を祝い、両親と写真に納まる野口紗那さんと怜那さん(中央左)と怜那さん(同右)＝8月、東京・銀座で
- ⑥オンラインサービス「タシナミ」で着付けを学ぶイメージ
- ⑦月額利用サービス「わたしの和だんす」の月額3300円コースで選べる着物



若者が着物に触れる機会を増やそうと、呉服業界で新たな取り組みが進んでいる。家族だけの成人式で晴れ着姿を披露できたり、流行している月額利用サービスを通じて着物への親近感を高めてもらったりして、需要を促す狙いだ。

## 進む着物離れに歯止めを



「成長した姿を、お世話になった人に見てもらえてうれしい」  
ピンクを基調とした振り袖姿の野口紗那さんと、赤いトーンの怜那さんの双子が笑顔で話す。8月中旬、二十歳になるのを記念し、両親や祖父らと開いた「家族のための成人式」の一コマだ。  
呉服卸販売のいつ和(新潟県十日町市)が東京・銀座の「観世能楽堂」で催した。野口さんら七組の親子が参加。厳かな舞台の上で子どもが親に感謝の言葉を伝え、全員が満面の笑みで記念の写真を撮った。  
新成人は通常、自治体主催の成人式に参加する。ここで振り袖や紋付きはかまを着ても、その後は遠ざかることが多い。  
「当日は一緒に時間が限られる。ならば家族だけの式があってもよい」。担当したいつ和の中西昌文氏は話す。

## 家族だけの成人式・サブスク…新サービス攻勢

二〇年の呉服小売りの市場規模は二千三百八十億円と前年比一割近く減る見込みで、着物離れが進む。若者には、着物は特別な場面での装いと意識が強く、うまく利用者を増やせていない。  
いつ和は一七年から家族だけの式を始めた。事前に準備を重ねてオリジナルの式を提供。親が着付けを学び、娘を振り袖姿にすることも。紋付きなどに触れば、将来の需要にも期待ができる。  
グリーンライフ(大阪市)の「わたしの和だんす」は、月額利用「サブスクリプション」サービスだ。着物や長じゅばんなどが自宅に届き、返却すれば翌月は別のものを試すことができる。  
月、千三百円のコースでは、百種類以上の着物が選べる。ポリエステル素材のため着付けの練習や外出で着る人に便利だ。月六千六百円のコースには正絹の着物もある。  
京都きもの友禅は、スマートフォンの着付けを学べるオンラインサービス「タシナミ」を始めた。初級から資格を目指すコースまで五種類。レッスンでは講師が画面越しにマンツーマンで教え、質問に応じてくれる。

# 和装の輪を若者に